

北ノ俣岳周辺の植物相 2

千藤克彦・永田幸枝*・浜田真成**・村瀬正成*
山田雅人***・吉田國二*

A survey of the flora from the vicinity of Mt. Kitanomatadake,
Gifu Pref., Central Japan (II)

Katsuhiko SENDO, Sachie NAGATA, Masanari HAMADA, Masanari MURASE
Masato YAMADA, Kuniji YOSHIDA

1. はじめに

北ノ俣岳は、岐阜県の最北端に位置し、富山県と接した標高2,661mの山である。この地区の植物相について、証拠標本をもとにした植物相調査を岐阜県植物誌調査会と合同で2005年から行っており、同年の調査結果についてはすでに報告した(千藤ほか2006)。ここでは2006年に行った調査結果について報告する。

2. 調査方法

調査は、2005年の調査と同様、飛越トンネルから、飛越新道を経て神岡新道に入り、鏡池平、寺地山、北ノ俣避難小屋に至るルート上で行った。さらに北ノ俣岳から黒部五郎岳まで踏査した。調査期間は2006年7月10日から13日までである。

3. 結果

今回の調査は、主に昨年調査できなかった北ノ俣岳稜線の標高2,300m以上の部分から黒部五郎岳にかけて行う予定であった。しかし悪天候のため、この区間で標本を採取することができなかった。

北ノ俣岳から黒部五郎岳にかけての稜線は、北西-南東方向にほぼ1直線で、岐阜県と富山県の県境となっている。稜線上の植生を観察すると稜線の西側の岐阜県側はハイマツ帯となっており、背丈の低いハイマツで覆われている。東側の富山県側には雪田が発達し、雪が融けたあとには高山植物のお花畑ができています。すなわち稜線を境に両側の植生が異なるいわゆる「非対称植生」となっている。(図1) これは、この地域の風が偏西風の影響から1年を通して西の岐阜県側から東の富山県側に吹いているためと推察された。このような環境のため、植物相は岐阜県側は貧弱で種類数も多くなく、富山県側は種類数や個体数が豊富な状態となっていることがわかった。



図1 北ノ俣岳-黒部五郎岳の稜線
(向かって右が岐阜県側 村瀬撮影)

標本採取は2005年とほぼ同じ区間で行った。調査時期が約2週間早く、残雪が例年より多かったため、花期が早くて前回採取できなかった植物も多く見られた。

採集できた植物は、15科37種だった。それぞれの内訳は下記のとおりである。

シダ植物		: 2科	2種
双子葉植物	離弁花類	: 5科	9種
	合弁花類	: 4科	12種
単子葉植物		: 4科	14種
	合計	: 15科	37種

植物目録 (学名、和名、標本番号、採集地の順に表記)

シダ植物

イワテンダ科

Athyrium pinetorum

タカネサトメシダ 190 北ノ俣岳避難小屋－寺地山
202 飛越新道分岐－芭蕉平

Matteuccia struthiopteris

クサソテツ 205 飛越新道 芭蕉平－登山口

被子植物 双子葉離弁花類

キンポウゲ科

Coptis trifolia

ミツバオウレン 170 北ノ俣岳避難小屋付近
174 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

Anemone debilis

ヒメイチゲ 176 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

ユキノシタ科

Tiarella polyphylla

ズダヤクシュ 162 飛越新道芭蕉平

Schizocodon soldanelloides

イワカガミ 165 飛越新道

Schizocodon soldanelloides f. *alpinus*

コイワカガミ 175 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

バラ科

Fragaria iinumae

ノウゴウイチゴ 203 飛越新道 芭蕉平－登山口

Sieversia pentapetala

チングルマ 178 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

Rubus ikenoensis

ゴヨウイチゴ 179 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

Sorbus commixta

ナナカマド 182 北ノ俣岳避難小屋－寺地山
193 神岡新道 鏡平池－飛越新道分岐

カエデ科

Acer tschonoskii

ミネカエデ 192 神岡新道 鏡平池－飛越新道分岐

ウコギ科

Oplopanax japonicus

ハリブキ 187 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

被子植物 双子葉合弁花類

イチヤクソウ科

Monotropastrum humile

ギンリョウソウ 172 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

ツツジ科

Rhododendron albrechtii

ムラサキヤシオツツジ 168 神岡新道－鏡池平

Rhododendron brachycarpum

ハクサンシャクネゲ 204 飛越新道 芭蕉平－登山口

Rhododendron tschonoskii subsp. *trinerve*

オオコメツツジ 183 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

Epigaea asiatica

イワナシ 171 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

Vaccinium ovalifolium

クロウスゴ 191 神岡新道 鏡平池－飛越新道分岐

Vaccinium smallii var. *smallii*

オオバスノキ 180 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

Vaccinium yatabei

ヒメウスノキ 195 飛越新道分岐－芭蕉平

Gaultheria adenostrix

アカモノ 189 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

ゴマノハグサ科

Melampyrum laxum var. *nikkoense*

ミヤマママコナ 173 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

被子植物 単子葉類

ユリ科

Maianthemum dilatatum

マイヅルソウ 163 飛越新道芭蕉平

Clintonia udensis

ツバメオモト 169 神岡新道－鏡平池

185 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

Heloniopsis orientalis

シヨウジョウバカマ 177 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

Paris tetraphylla

ツクバネソウ 197 飛越新道分岐－芭蕉平

Smilacina viridiflora

ヤマトユキザサ 167 神岡新道

181 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

Smilacina yesoensis

ヒロハユキザサ 188 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

Streptopus streptopoides var. *japonicus*

タケシマラン 199 飛越新道分岐－芭蕉平

Trillium apetalon

エンレイソウ 184 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

サトイモ科

Lysichiton camtschatcense

ミズバショウ 186 北ノ俣岳避難小屋－寺地山

カヤツリグサ科

Carex foliosissima var. *pallidivaginata*

ウスイロオクノカンスゲ 201 飛越新道分岐－芭蕉平

Carex shimidzensis

アズマナルコ 196 飛越新道分岐－芭蕉平

ラン科

Platanthera ophrydioides var. *monophylla*

キソチドリ 164 飛越新道芭蕉平

198 飛越新道分岐－芭蕉平

Dactyloctenium aegyptium

イチヨウラン 165 飛越新道

Listera cordata var. *japonica*

コフタバラン 200 飛越新道分岐－芭蕉平

2005年の調査と合わせると42科135種を確認した。
内訳は下記のとおりである。

シダ植物	： 7 科	19 種
裸子植物	： 2 科	6 種
双子葉植物	離弁花類：14科	29種
”	合弁花類：13科	38種
単子葉植物	： 6 科	43種
合計	： 42 科	135種

4. まとめ

2回の調査で亜高山帯の植物相が明らかになってきた。高山帯については調査が十分とは言えないが岐阜県内は種類数は多くはないことが予測できた。高山帯についてはさらに詳細な調査が必要である。また亜高山帯についても時期をずらして調査を行う必要がある。

引用文献

千藤克彦、永田幸枝、浜田真成、村瀬正成、山田雅人、吉田國二 2006. 北ノ俣岳周辺の植物相. 岐阜県博物館研究報告 (26)



図2 寺地山から見た北の俣岳



図3 ノウゴウイチゴ



図5 コフタバラン



図4 イチヨウラン



図6 調査風景（神岡新道）

（図2～6 永田撮影）